

都市再生整備計画

しらおい
白老地区

ほっかいどう しらおいちょう
北海道 白老町

令和5年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	北海道	市町村名	しらおいちょう 白老町	地区名	しらおいちく 白老地区	面積	55	ha
計画期間	令和	5	年度	～	令和	8	年度	
					交付期間	令和	5	年度
						～	令和	8
								年度

<p>目標</p> <p>大目標：住み慣れた地域で誰もが安全・安心に暮らすことができるまちの実現</p> <p>目標1：持続可能な地域医療・介護福祉サービスの提供</p> <p>目標2：津波から命を守る拠点づくり</p> <p>目標3：地域公共交通の利用促進</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)</p> <p>本町は、社台・敷生・白老の3つの村が合併して白老村となり、その後、昭和29年に町政が施行され現在の白老町となった。その地勢は東西28kmと細長く、集落が各地区に点在している。さらに、市街化区域の北側では、過去に温泉付き大規模分譲が行われ、第34条第11号の規定に基づく条例指定区域をはじめ、旧住宅地造成事業に関する法律により造成された既存住宅地が広く分布している。このため、本町の都市構造は地理的、歴史的な経緯から分散傾向にあり、町内各所に低密度な集落が広がっている。</p> <p>また、全国的な人口減少・少子高齢化の流れを受け、本町の総人口は昭和60年の24,353人をピークに減少の一途をたどり、令和2年の国勢調査においては16,247人まで減少するなど、人口減少に歯止めがかからない状況にある。加えて、これまで白老地区にあった人口集中地区(DID)が令和2年の国勢調査の結果を受け消失するなど、市街地の低密度化が進んでいる。</p> <p>一方、近年、開業したウボボイが全国的に注目を集め、まちの魅力が向上している。ウボボイが立地する中心拠点では、同施設の開業にあわせて周辺道路や駅舎等の改修、特急停車本数の増便、地域循環バスの運行など、交通アクセスが強化され、さらに、インフォメーションセンターの建設やウボボイの開業を見据えた新規出店の動きなど、まちの活力を生み出す基盤整備が進み、都市機能が高まっている。</p> <p>こうした状況の中、令和4年度に第2次白老町都市計画マスタープランを改定し、コンパクト・プラス・ネットワークを基本とした都市構造への転換を目指していくとともに、本計画の実効性を高めるため、立地適正化計画の策定にも取り組み、居住や都市機能の緩やかな立地誘導等による縮充のまちづくりを推進している。</p>
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>本地区には、町立病院をはじめ、総合保健福祉センター、特別養護老人ホーム、高齢者向け町営住宅など、様々な福祉施設が集積し、まちの福祉拠点として位置付けられている。これらの施設のうち、町立病院については築後56年が経過し、老朽化が著しく早期改築が多くの町民から切望されている。また、令和3年6月、北海道から示された新たな津波浸水想定を受け、多くの高齢者が居住する同地区において津波防災対策が喫緊の課題となっている。これらの問題を複合的に解決するため、町立病院の現地建替えを基本に、ピロティ化による施設の嵩上げを行い、屋上・テラス等を地域住民の一時避難場所として利活用することで、地域医療の継続と津波防災対策の推進を図る。また、新病院の敷地内に太陽光パネルを整備することで、脱炭素に対する町民への意識啓発と新施設に対する省エネ化の推進を目指していく。さらに、同エリアの位置付けから高齢者や障がい者等の社会的弱者に対する平時の利便性や災害時の逃げやすさなどを考慮した、誰もが円滑に移動できる環境整備を推進していくとともに、公共交通のICT化にも取り組み、新病院への通院環境の向上を図る。</p>
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町立病院は築後56年が経過し、建物自体の老朽化・狭隘化が顕著に見られており、加えて、建築基準法上の耐震基準を満たしていないことから、早期改築が求められている ・町立病院の外周に接道する歩道は、通院する高齢者や周辺の園児等が利用しており、段差解消や勾配改善など誰もが円滑に通行できる空間整備が求められている ・北海道から公表された新たな津波浸水想定を受け海岸沿いに広がる市街地への被災リスクが高まっており、津波を回避するための高台整備等が求められている ・脱炭素社会の実現を目指すため、自治体において温室効果ガス排出量削減に向けた取組が求められている ・町営のコミュニティバスに対する利用者ニーズに応えるため、定期的なバス路線やダイヤ等を見直し、その内容を冊子により周知しているが、全ての利用者に行き届かず、コミュニティバスに対する満足度が低迷している
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>①第6次白老町総合計画(2020-2027)(令和2年度策定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 【住環境】時代に適応した住環境の整備を進め、安全で住みよい都市環境が整うまちを実現 【防災・減災】災害に強い都市基盤の整備促進と地域防災力の向上により災害に強いまちを実現 【地域医療】住み慣れた地域で、いつでも安心した医療が受けられ、町民の命や健康が守られるまちを実現 【循環型社会形成】再生可能エネルギーの利用や省エネルギーの実践により、環境負荷が低減するまちを実現 【公共交通】利便性の高い公共交通体系が整備され、日常生活の足が確保されるまちを実現 <p>②第2次白老町都市計画マスタープラン(2022～2041)(令和4年度策定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 【土地利用】集約型土地利用への転換(鉄道駅等を中心に生活に必要な都市機能を集約させ、町民の暮らしの核となる拠点形成を図り、便利で暮らしやすいまちを目指す) 【都市交通】持続可能な公共交通網の形成(コミュニティバス等の近接がわかるローケーションシステムやMaaS等の交通に関する新技術など、国や民間等の動向を注視しながらその活用について検討する) 【都市施設】その他の公共施設の整備(コンパクトなまちづくりを意識しながら公共施設の適正配置に向けて検討を進める) 【都市環境】環境負荷の低減(太陽光など再生可能エネルギーの活用を促進する、環境負荷が少ないバスや鉄道などの公共交通の利用を促進する) 【都市防災】津波浸水対策の推進(町立病院の改築にあたっては、屋上を津波一時避難場所として活用できるよう整備を進める) <p>③白老町立地適正化計画(2022～2041)(令和4年度策定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの活力とにぎわいを生み出す都市拠点の形成 ・適切な人口密度を持ったまとまりのある拠点の形成 ・拠点へのアクセス性を高める公共交通ネットワークの構築 ・安全・安心な暮らしを支える都市づくり

都市構造再編集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

・都市機能は公共交通のアクセス性が優れ、様々な都市機能が集積する中心拠点に配置する。現在、中心拠点にはウポポイが立地しており、同施設を呼び水に今後、国内外から多くの来訪者が期待されることから、同地区への都市機能の集約化、再整備化を進め、更なる魅力度向上を図り、都市活力の創出とにぎわい再生を目指す。
 ・中心拠点には、病院、高校、役場、図書館、コミセン、体育館等の公共公益施設の多くが立地しており、これらの既存の都市機能を維持することを基本としながら、更なる都市施設の集積を図り、コンパクトなまちづくりを目指す。
 ・地域拠点については、中心拠点との交通ネットワークを強化し、中心市街地の生活サービス機能を楽しみやすい環境形成を推進するとともに、既存の商店や公民館、生活館等の身近な生活サービス機能や地域コミュニティの維持・増進を図る。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

- 目標1 持続可能な地域医療・介護福祉サービスの提供
 東胆振医療圏との連携を図りつつ、回復期患者の受入体制の充実と併設型介護機能を兼ね備えた、医療・介護福祉の一体的な提供を担う病院として改築を進め、今後増大かつ多様化する医療需要に対応していく
- 目標2 津波から命を守る拠点づくり
 ピロティ化による現地建替えにより、病院屋上・テラス等を津波一時避難場所として整備し、施設入所者や地域住民の安全を確保する
- 目標3 地域公共交通の利用促進
 ICT技術を活用して利便性の向上を図り、公共交通機関全体の利用促進につなげる

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地域医療に対する町民満足度	%	安全安心で適切な医療サービスが受けられると感じる町民の割合	病院建替えによる医療環境の改善、強化により、地域医療に対する町民満足度の向上を目指す	30.6%	R3	50.0%	R8
津波に対する避難時間	分	地区住民の津波に対する避難時間	病院屋上・テラス等を津波一時避難場所として整備することで、地域住民の避難時間の短縮を図る	30分	R3	15分	R8
地域公共交通に対する町民満足度	%	利便性の高い、魅力ある公共交通が維持・確保されていると感じている町民の割合	スマートバス停とロケーションシステムの整備により、コミュニティバスの交通アクセスに対する町民満足度の向上を目指す	39.2%	R3	50.4%	R8

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【持続可能な地域医療・介護福祉サービスの提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民が住み慣れた地域でいつまでも安心して医療が受けられる地域医療の拠点づくり ・長期的な医療と介護ニーズをあわせもつ介護医療院の整備 ・脱炭素社会の実現に向けた省エネ等の取り組みの推進 	<p>【基幹事業】 誘導施設：医療施設(町立病院)</p> <p>【基幹事業】 地域生活基盤施設(太陽光パネル)</p> <p>【提案事業】 地域創造支援事業：介護保険施設(介護医療院(療養))</p>
<p>【津波から命を守る拠点づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院屋上・テラス等を活用した津波一時避難場所の整備 ・高齢者、障がい者等の円滑な移動に配慮した病院周辺歩道のバリアフリー化 	<p>【基幹事業】 誘導施設：医療施設(町立病院)</p> <p>【基幹事業】 地域生活基盤施設(地域防災施設)</p> <p>【基幹事業】 道路：バリアフリー歩道(町道)</p>
<p>【地域公共交通の利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT技術を活用して町営コミュニティバス運行情報等をリアルタイムに提供できる環境整備 	<p>【提案事業】 地域創造支援事業：スマートバス停、ロケーションシステム</p>
<p>その他</p>	
<p>【まちづくりの住民参加】</p> <p>令和元年 総合計画・総合戦略改定に伴う町民アンケート調査を実施し、今後のまちづくりに対する住民意向等を把握する 「しらおい未来フォーラム&まちづくりワークショップ」を開催し、町民と町職員がまちの将来像を共有する</p> <p>令和2年 令和2年6月議会で議決を経て、第6次白老町総合計画が成案化される 第2期白老町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、議会全員協議会の中で報告する</p> <p>令和3年5月 白老町立国民健康保険病院改築協議会から町立病院改築基本計画(案)に対して意見書が提出される 5月 都市計画マスタープラン改定に伴う町民アンケート調査等を実施し、今後のまちづくりに対する住民意向等を把握する 6月 議会特別委員会での審議を経て、白老町立国民健康保険病院改築基本計画が成案化される 7月 北海道から示された新たな津波浸水想定を受け、改築基本計画を一部改正し、議会全員協議会の中で報告する 8月 町民を対象に「まちづくり未来フォーラム」を開催し、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりの理念普及を行う 11月 都市計画マスタープラン改定に伴う地区町内会連合会長とのヒアリングを通し、各地区の現状を把握する</p> <p>令和4年3月 第2次白老町都市計画マスタープラン(案)に対する町民意見を聴取するためパブリックコメントを実施する 5～6月 白老町都市計画審議会への諮問・答申(第2次白老町都市計画マスタープラン(案)) 7月 第2次白老町都市計画マスタープラン成案化 7～8月 白老町立地適正化計画(案)に関する住民説明会の開催 9月 白老町立地適正化計画(案)に対する町民意見を聴取するためパブリックコメントを実施する 10～11月 白老町都市計画審議会への諮問・答申(白老町立地適正化計画(案)) 12月 白老町立地適正化計画の成案、公表</p> <p>このほかに、年に2～3回、町民活動団体等が主催する講演会等に町長が出席し、町の政策や施策の説明、町民との意見交換により、まちづくりに関する理解を深めている。</p>	

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項(都市構造再編集集中支援事業)

様式(1)-④-1

交付対象事業費	3,391	交付限度額	1,690.0	国費率	0.498
---------	-------	-------	---------	-----	-------

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比B/C
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
道路	バリアフリー歩道	町道日の出通り	白老町	直	95m	5	7	5	7	30	30	30		30	-
	バリアフリー歩道	町道日の出1号通り	白老町	直	120m	5	7	5	7	13	13	13		13	-
	バリアフリー歩道	町道南中通り	白老町	直	140m	5	8	5	8	42	42	42		42	-
公園															
古都保存・緑地保全等事業															
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設	再生可能エネルギー施設	太陽光パネル	白老町	直	854.3㎡	5	6	5	6	46	46	46		46	
	地域防災施設	津波一時避難施設	白老町	直	一式	5	5	5	5	71	71	71		71	
高質空間形成施設															
高次都市施設	地域交流センター														
	観光交流センター														
	テレワーク拠点施設														
	子育て世代活動支援センター														
	複合交通センター														
誘導施設	医療施設	町立病院	白老町	直	5,542.1㎡	3	6	5	6	2,502	2,502	2,502		2,502	1.2
	社会福祉施設														
	教育文化施設														
	子育て支援施設														
既存建造物活用事業															
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
バリアフリー環境整備事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地総合整備事業															
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
合計										2,704	2,704	2,704	0	2,704	…A

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
地域創造支援事業	介護保険施設	介護医療院(療養)	白老町	直	1,478.5㎡	3	6	5	6	665	665	665		665	
	スマートバス停	町役場(上下線)、白老駅南口、町立病院、ポロトミナラ	白老町	直	5基	7	7	7	7	22	22	22		22	
事業活用調査															
まちづくり活動推進事業															
合計										687	687	687	0	687	…B
													合計(A+B)	3,391	

白老地区(北海道白老町) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	大目標: 住み慣れた地域で誰もが安全・安心に暮らすことができるまちの実現	代表的な指標	地域医療に対する町民満足度 (%)	30.6	(R3年度)	→	50.0	(R8年度)
	目標1: 持続可能な地域医療・介護福祉サービスの提供		津波に対する避難時間 (分)	30	(R3年度)	→	15	(R8年度)
	目標2: 津波から命を守る拠点づくり		地域公共交通に対する町民満足度 (%)	39.2	(R3年度)	→	50.4	(R8年度)
	目標3: 地域公共交通の利用促進							



凡例

- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業

■ 基幹事業: 誘導施設
医療施設整備(町立病院)

□ 提案事業: 地域創造支援事業
介護医療院(療養)整備

■ 基幹事業: 地域生活基盤施設
再生可能エネルギー施設整備(太陽光パネル)

■ 基幹事業: 地域生活基盤施設
地域防災施設整備(屋外階段、屋上手すり他)

□ 提案事業: 地域創造支援事業
スマートバス停整備

■ 基幹事業: 道路
バリアフリー歩道整備(病院外周)